

アナキストと自主管理 — 冬川啓夫・訳編
 「オート・ジェスチオン」誌特集より
 論潮 「アンテロガシオン」誌の事 江口幹
 教育ノート4 北川鬼太郎
 書評「アナキスト」 宮坂英一
 映画評「宵待草」 山上春彦
 核抗議船フリー号の意義 戸駒恒世
 クロンシュタット・イズヴェスチャ3
 潮流 (1975・5 350円)

八号

ボクラのものを ボクラの手に
 —良心的軍事費拒否の会— オノノミチオ
 アナキズムとテロリズム 江口 幹
 特集・天皇制の解体とは
 アキツミカミ・ノート 大沢正道
 アナキストと天皇制破壊 大島英三郎
 天皇制と教育 辻 文明
 諸悪の根源たる殺人狂を裁け 松井不朽
 何が本質か 奥崎謙三
 天皇制とわれわれのあいだ 座談会
 キブツ給水塔の黒旗・キブツとアナキズム
 ジオラ・メノール 冬川啓夫・訳
 ある朝鮮人アナキストの伝記4 李 乙奎
 クロンシュタット・イズヴェスチャ4
 現代社会福祉の情况 遠矢 巖
 論潮 ベトナム革命の素顔 石川玄造
 映画評「わが青春のとき」 山上春彦

書評「遊戯と労働の弁証法」 林光晴
 状況、そして立場 奥沢邦成
 SIC通信 国際通信部
 潮流／編集方針にむけて (1975・9 350円)

九号

南埼玉病院の闘争報告 関美保子
 特集・暴力VS非暴力
 狼の立場と僕たちの立場 安保拒否百人委
 —救援の問題をめぐって— 河辺岸三
 非暴力の理念と「摂理の暴力」 福島亀吉
 内ゲバを超えるものは：： 森 一蘭
 戦争抵抗者インタラの今日の課題 宮坂英一
 暴力主義の系譜とその批判 奥沢邦成
 ある朝鮮人アナキストの伝記・完 李 乙
 論潮 模索からの出発 全都アナ研連絡会議
 書評「青棘の女たち」 藤川健郎
 映画評「七人の侍」 山上春彦
 学童保育の現場から 石垣鉄兵
 第四回全国労組活動交流会 中河友
 (1975・12 350円)

十号

便利さに 未来も捨てる 使い捨て 樋田功
 盗毒の視点 大門一樹
 特集・新しい労働運動をめざして 中河 友
 反帝労働運動と「労活」

企業内組合主義の批判としての
 地域合同労組 中村隆司
 反戦派労働運動から受け継ぐもの 奥沢邦成
 新しい組織形態としての評議会 江口 幹
 論潮 物価高の生活危機は世界の危機
 そのものではないのか 木村 宏
 三里塚の位置 安田信次
 労働組合は革命の起爆剤
 となり得るか 横倉辰次
 書評「虚無思想研究」 森 一蘭
 映画評「変奏曲」 山上春彦
 東アジア反日武装戦線と非暴力直接行動
 の立場(投稿)
 クロンシュタット・イズヴェスチャ5
 潮流／暴力再考(合評会報告)／読者のこえ
 (1976・3 350円)

(五二頁よりつづく)
 ともあれ、深作の力量をもってすれば、「
 実録日共」は相当に面白い作品になると期待
 しているのだが(何しろ、現代日本の最もす
 ぐれた組織形成者は、一人は田岡一雄であり、
 もう一人が宮本顕治だという説すらあるのだ
 から)、これはこの作品の評としては蛇足に
 すぎるだろうか。(東映作品)

クロンシュタット・
 イズヴェスチャ

10号 一九二二年三月十二日
 11号 一九二二年三月十三日

La Commune de
 Cronstadt
 —Cronstadt
 Izvestias—
 Delibaste 1969
 吉原文明・訳

イズヴェスチャ 10号

一九二二年 三月十二日 土曜日
 本日は独裁政治崩壊と官僚機構瓦解の前日である。

臨時革命委員会は荷物輸送に関し、その重量と用途を特記し、家畜
 および自動車輸送機関の正確な目録を三月十三日までに臨時革命委員
 会の運輸課に提出するよう、海軍所管とソヴェト機関、並びにクロン
 シュタット要塞のすべての軍事部門に対し要請する。

臨時革命委員会運輸所管代理 バイコフ

戦況報告

濃霧が発生し発砲が妨害されたので、三月十一日は日中平閑であつ

た。十八時に「クラスナイア・ゴルカ要塞」の砲門から発砲された。
 だが町には的中せず効力はなかった。
 我々の要塞の北側——リシーとセストロレック——要塞は、引き続
 き砲撃を続けている。我々の砲兵中隊の砲火は、敵を静まらせた。斥
 候パトロール隊が派遣された。

我々の砲兵中隊はオラニエムバンに於いて、パンを万載した列車を
 破壊した。その結果、オラニエムバン要塞の守備兵は、その日パンの
 配給がなかった。敵の飛行機は町に幾度となく侵入し多くの爆弾を投
 下した。

十六時に敵の砲隊がオラニエムバンの方向から、続いて「クロスノ
 オフロツキー」要塞からの砲門が開かれた。我々の大砲は力強く反撃
 した。二〇時に発砲は静まった。

臨時革命委員会委員長・ベトリチェンコ
 クロンシュタット要塞守備隊長 ソロヴィイマノフ

水兵・赤軍兵士・労働者のすべての同志は、三月十二日八時からの共産主義者の攻撃を撃退した。

親愛なる同志諸君！ 共産党のくびきからロシア・ソヴェトを解放するための偉大な任務は、諸君の団結にかかっている！

親愛なる同志諸君！ 最も重要であり、最も苦痛なこの死闘に貢献できるのは、諸君らである。母親・婦人・子供達は、諸君らの勝利を信頼している。彼らは、諸君らに自分の生命を自信満々に希望をもって預けたのだ。諸君らは、ロシアの労働者の保護者なのだ。諸君らは真実を所有しているのだ。

親愛なる戦闘員諸君！ ソヴェトの自由選挙のため、困難な戦いにもかかわらず主張を続けているクロンシュタットは、労働者の利益のため、保護者として、残存し、残存し続けるだろう。

革命の発展段階

数世紀の間存続した独裁権力のくびきが立ち切られてからこの四年間、人民は、ツァー権力を打倒したニコラスのコサック騎兵と近衛騎兵によって虐げられ、拷問にかけられてきた。

すべてのロシアの金持も貧乏人も自由を歓喜した。同様に、資本家も地主たちも満足した。彼らはツァー権力と共に分け前を共有することとはなく、懐により一層の小金を貯めるため、更には以前のように労働者・農民を酷使することを望んでいた。愚かな彼らは、ゆっくりとしかし確実に憲法制定議会への道をケレンスキートと共に辿りだした。

町の状態は暗く重く、呼吸することさえ困難に思えた。すべてが元の状態のままのロシアは、強制労働のための広大なキャンプと化した。だが、労働者たちの忍耐は限界に達しはじめていた。いたるところで労働者・農民の反抗が繰り広げられ、革命の時がやって来た。だがその時人民委員の戦闘部隊が到着した。

社会主義革命の見張人——クロンシュタット——は無気力ではなかった。二月と十月革命に於いて最初の戦線を突破したのは、クロンシュタットである。労働者たちの第三革命の旗を最初に振り上げたのもまたクロンシュタットである。

独裁政治は打倒された。憲法制定は単なる幻想にすぎない。そして、人民委員の体制は、彼らの陰謀と同様崩れ去った。その瞬間、労働者の真の権力が取り戻された。その瞬間、ソヴェトの権力がもたらされた。

自由のために死んだ我らの同志たち

諸君らが労働者のために自からの生命を捧げた記憶は、決して失われることなく、諸君らの名は永遠に残るであろう。戦いの暴虐のなかで、諸君らは他の人々のことのみを考えてくれた。我々の理想の防衛者である諸君らは、敵の発砲の前にも躊躇しなかった。

第三革命の最初の犠牲者となったのは、それは諸君らである。労働者革命の最初の犠牲者は、諸君らによって示された。諸君らは、我々の権利の正しさと、その再取得の道を示してくれた。諸君らは——打ち勝つか死ぬか——を叫びながら戦った。

諸君らは今こうして死に去った。だが我々は諸君らの戦いを完遂させ、

ブルジョアジーは、労働者・農民の利益を搾取するための計算をしていた。

何も知らぬ人民は、無知識な者たちにも反映される憲法制定議会の創立を望んでいた。それは、すべてのロシアの標語であった。その間憲法制定によって土地問題が解決されると信じていた農民は、社会上の一切の権利を持たぬ賤民として取り残されていた。労働者も農民と同様に、労働生産の権利を全く持てぬ以前のような状態で酷使されていた。結局ロシアの労働者たちは、資本家の束縛が必然であると理解した。それは、ブルジョアジーの権力である新しい奴隷制が出現したことであった。

人民の忍耐は極限に達し、一九一七年十月に水兵・赤軍兵士・労働者そして農民たちの力の下にブルジョア権力は瓦解した。そして人民は、彼らの権利を戦い取ることができるようであった。しかし、利殖主義者でいっぱいになった共産党は、騒乱鎮圧の名に於いて労働者・農民を押しつけ、権力を奪い取ってしまった。そして、人民委員を巧みに利用しながら、ツァー主義者のような者どもに国家を管理させた。

それから三年間、人民はチェカの恥辱的な暴政の重圧下に泣いた。いたるところで共産主義者の支配が広がり、新しい奴隷制が誕生した。農民はソヴェト的な経済機構のなかで、農奴として再編された。労働者は国営工場で単なるサラリーマンと化されていった。そして知識人はほとんど皆殺しにされた。これに対し、抗議した者たちはチェカによって牢獄にほうり込まれ、勇敢にも反抗した者たちは簡単に射殺された。

再び諸君らを蘇らせるだろう。我々は諸君らの墓石の上に、諸君らと共に打ち勝つか死ぬかの雄叫びを再び鮮かにあげるだろう。

労働者解放の鐘はなった。

クロンシュタットとスモルニ

我々が戦っているものは、全世界の人々が当面している問題をなしているものであり、一団だけの秘密めいたものでは決してない。我々が望んでいるものは、労働者の一致した願望を現実化することであり、ソヴェトの真の権力を構築することである。だれ一人としてこれに反対することはできない！ チェカと暗殺者集団はなおさらのことである。

我々の戦いの保障？ それは、守備兵と人民の強固で落ち着き払った自信である。

敵の部隊は余裕があるのか？ 答えは、我々が入手した三月九日の新聞の記事が証明するであろう。その新聞とは、中央印刷所に掲示されていたものである。すべての市民は、労働者と赤軍兵士に關した嘘と中傷を万載したその新聞を、スモルニの注釈によって読んだり眺めたりしていた。この「お喋りな新聞」は、カデットが臨時革命委員会のメンバーのバルシイヌを町へ侵入して逮捕したことまでも立証した。：。愚かな共産主義者たちよ！

ところで諸君らはこの誤ちを許すのか？ 同志が逮捕されてしまったのだ。諸君らはこのような状況を理解しようとしているのか？ よろしい説明しよう。三月八日、白旗を得意げに振り回しながらある敵のグループが、我々の前哨たちの方へやって来た。同志バルシイヌは、

市民の代表者たちと信じ、彼の拳銃を置き、談判することを望んでや
って来た彼らのもとへ武装解除して出かけていった。裏切者よばわり
された我々は、裏切者ではないのだ。彼らは同志を逮捕し、連行し
ていったのだ。

見よ市民の皆さん、これが真実だ！
そして「レッド・ジャーナル」の党員たちは、ブラウダ紙に同様の
説明を載せることによってしか批判することができないのだ。更に
ブラウダ紙は、クロンシュタットに到着した二十二人の反革命分子のな
かに百人のツアーの役人どもがいたと述べた。

我々は革命が成就される日に向けて行動している。彼らの嘘は、我
らの宣伝の最もすぐれたものである。

三月十一日の代表者会議

閉会前の五時、会議室で同志ベトリチェンコは、ボルシェヴィキの
新聞ブラウダとレッド・ジャーナルを配布した。クロンシュタットは、
共産主義者の印刷物を恐れてはいない。

会議は大砲の轟音が唸る中で四時に開会された。まず最初に、革命
の英雄たちに一分間の黙禱を捧げた。続いて代表者たちは食糧に關す
る討議を行い、臨時革命委員会の情報を注意深く聴いた。その後数人
の代表者が、クロンシュタットでは良識ある状態が保持されているこ
とを認める発言をした。会衆は、現在の状態をより完全に保つため、
臨時革命委員会の政治姿勢を承認した。続いて代表者は、めまぐるし
く展開している諸事件について討議した。ある代表者が、逮捕された
共産主義者の革靴を徴集することを提案した。万場一致の叫び声「彼

ら我々から収奪した物を返してもらおう！」がその答えであった。
代表者は、続いて独裁政治瓦解と官僚政治崩壊を賞賛する討議を行
った。裁縫工場のある労働者は、ソヴェト（人民の資産）である三千
着の下着が前線の戦闘員に送られてしまい、なくなったことを知らせ
た。同志キルガストは、各部所にこの情報を知らせよう代表者たち
に要請した。

続いて代表者たちは、現在逮捕されている共産主義者の場合によっ
ては釈放する問題に入った。その後の討議で同志ベトリチェンコは、
以前釈放された者たちの例をあげた。我々は共産主義者を信頼するこ
とはできない。イリン、ガラポフ、そして他の釈放された共産主義者
は、数時間はその場にいたが、すぐさま彼らの宣伝と陰謀を企てはじ
めた。イリンも同様にクロンシュタットのニュースを提供するためク
ラスナイア・ゴルカへ電話した。最も危険な者どもは逮捕し、戦闘行
為が終わるまで拘留すべきことが決定された。

代表者は、今後逮捕者をだすことがないよう、革命的三頭政治を承
認するよう、臨時革命委員会を明確にした。

会議終了前に同志ベトリチェンコは、クロンシュタット守備兵に向
って敬礼するよう要請した。拍手喝采された。

われらの将軍

共産主義者は、白軍の将軍や将校そして僧侶が臨時革命委員会のメ
ンバーのなかにいることをほめかしている。すべてのこのような嘘
言に終止符をうつため、我々は、委員会が次の十五人から編成されて
いることに彼らの注意を喚起しよう。

- 1 ベトリチェンコ 戦艦ベトロバプロフスクの一等書記官。
- 2 ヤコヴェンコ クロンシュタット地区の電話交換手。
- 3 オゾゾク 戦艦セバストポリの機関手。
- 4 アルシポフ 機関手長。
- 5 ベレベルキン 戦艦セバストポリの機関手。
- 6 パトルチェフ 戦艦ベトロバプロフスクの機関手長。
- 7 クーポフ 一級看護兵。
- 8 ヴェルヒニン 戦艦セバストポリの水兵。
- 9 トーキン 電気工。
- 10 ロマネンコ 船舶修理事業場の守衛。
- 11 オレーシン 第三技術学校の職員。
- 12 ヴアルク 大工。
- 13 パヴロフ 海軍機雷工場の労働者。
- 14 バイコフ 荷馬車夫。
- 15 キルガスト 操舵手。

ベトログラードからのニュース

ブラウダ紙の報じるところによれば、社会情勢悪化の理由をもって、
次の新しい指令が発表されるまでベトログラードの婦人労働者の祭日
が廃止された。

だが、自由の迫害者もチェカが逗留している場所で、正直な労働者
たちがこの祭日に参加することを望むだろうか

北方第四隊から我らの隊列へ脱党してきた者たちの総会

共産主義者の隊列から離れた赤軍兵士は、次の三人——アラセンコ、
クズネゾフ、パウデンコ——から成る彼らの革命的三頭政治執政官を
選出した。

彼らは次のような決議を行った。「ガリバノフ将軍に対し我らの確
信を示した。我々共産主義脱党者は、クロンシュタットの町を守るた
め、最初の警報を鳴らした臨時革命委員会のメンバーである。」
労働者の防壁、それはソヴェトであり憲法制定議会ではない。

一人の若い英雄、十四才の青年ボドラシニコフは、斥候分遣隊に加
わるむねを登録した。これを拒む方法はなかった。彼は「銃口の前に
私をいかせてくれ。……静かに見守ってくれ」と言った。分遣隊は
夜間斥候した。この青年は勇ましく従軍した。

彼らは闇のなかで敵のバトロール隊に不意に襲われ、銃撃戦が始ま
った。やがて敵は疾走したが、その青年は敵の弾丸を受けて負傷した。
彼は「傷口を切るか、包帯をしてくれ」と叫んだ。彼の足に粗末な
包帯がまかれた。そして彼は、他の仲間と共に前進した。
現在彼は退院を、そして新たな戦いの中に身を投じることを待ち望
んでいる。

昨年、共産主義者が彼の父親を射殺していた。

ロシア共産党からの脱党

私は三年間陸軍や海軍で、クロンシュタットで教師として働いてき
た。私はたえず自由クロンシュタットの労働者たちの教育に私のすべ
ての力を注ぎながら、正道を歩み続けてきた。

私が一九二〇年二月ごろ入党した理由は、共産党の教育に対する「方向性」とか、擗取に対する労働者たちの戦とか、「ソヴェト建設」などであった。だが、これら一連の事件が進行していくなかで、私は、共産主義者の実力者によって黨員たちが数多くの誤ちを犯すのみで、日増に官僚は誤まちを深めている。日増に党は大衆から離れ、独裁者は栄えている。これらすべての現象は、大衆と党の間に底なしの深淵を掘ることではなく、彼らは国家を迫害する破壊者に対する戦をまったく無力にしてみました。

現在の状況を我々は眼孔を開いて注視しなければならない。数千のクロンシュタットの労働者たちが正しい解答を要求した時、「人民の防衛者たち」は機関銃で応えた。彼らは、革命的労働者・水兵そして赤軍兵士に対し兄弟殺しの砲火を開始した。そして、それでも十分ではないと見えて、彼らは罪もない婦人や子供たちの上に爆弾を投下した。

私は共産主義者によって繰り返られる残虐行為の共犯者になろうとは思わない。

私は臨時革命委員会を前に、自分がロシア共産党のメンバーとしては全く考えられない旨を表明する。

私は今日をもって「すべての権力を党にはなく、ソヴェトへ」という、クロンシュタットの労働者のスローガンと連帯する。

第二労働者学校教師 デニソフ

私は、貴君らが私自身を、ロシア共産党のメンバーとして見ないよう要求する。トロツキーによって、罪を犯した指導者たちの隊列に留

まることは恥しい。
私は人民の友であり、人民の友と共に残る。私は彼らのために死ぬであろう。

海軍砲工廠労働者 アレシヤンドロフ

政府がロシア共産党の宣伝を広めるために、トロツキーの介在によって使用している美辞麗句の本当の意味を理解するには、反逆した労働者や農民たちが、彼らの弾丸によって射殺されている諸事件の継続を、我々は知るべきである。

我々は「人民の自由のための誤った戦い」を投げ棄てるべきである。我々は「権力の手先は下劣だ、無罪の者たちの血を流させる売国奴は、たえず罪を重ねている」と断言する。

ここにこうして我々は、ロシア共産党のメンバーとみなさないことを、更には、クロンシュタット最高の臨時革命委員会のための戦いに、瞬であるとも、正直な労働者に与えられたと同じように、我々に許されることを要求する。そしてそれは、労働者・農民・すべての権力をソヴェトへ与えるために必要なことである。

都市労働者と前哨水兵 I・グウロフ

A・イアコチキン

同様に（各人の職業と一〇六人のサインが記載された）ロシア共産党脱党書簡が、編集局へ届いた。

イズヴェスチャ 11号

一九二一年三月十三日 日曜日

臨時革命委員会からの指令

自由を放棄した共産主義者は、彼らが証言した信用を悪用している。彼らは燈火信号によって敵と連絡することを試みた。

臨時革命委員会は、すべてのクロンシュタットの市民に、敵側の人間の行動を注意深く監視し、信号から何事が発せられようともすぐさま報告するよう命ずる。更に逮捕した加担者たちの代表者が到着するまでは、犯人たちを監禁することを命じる。

裏切者とスパイたちは、情況によっては、だれもいないと分れば、口述人と共謀して広場で実行したであろう。

クロンシュタット要塞防衛隊からの命令 臨時革命委員会

一九二一年三月十一日クロンシュタット要塞から

戦闘部隊と同様に個人が、敵の飛行機に鉄砲や機関銃を発砲することは厳禁されている。更には、銃撃戦は全く無益であり、飛行機に少しも損害を蒙らせることなく、弾薬の乱費を引き起すのみである。

臨時革命委員会委員長代理 オンノフ

防衛隊長 オロヴィアノフ

戦闘報告

三月十一日午前零時から、三月十二日正午まで。午前十時までは平穩であった。午前十時を過ぎると、相互の大砲が断続的に火を吹いた。侵入した敵機が爆弾を投下した。しかしこの攻撃は、町に損害を与えないことはなかった。

三月十二日正午から、午前零時まで。一時頃、侵入した敵機が町に爆弾を投下した。十九時まで敵の砲隊の砲火が、我らの町に激しい音をたててこたまし続けた。

臨時革命委員会委員長 ベトリチェンコ

君らは我らを恐怖させない。

ボルシェヴィキは、彼らの飛行機から爆弾を投下し続けている。彼らは人民を恐怖させることを欲んでいる。彼らの唯一の論法は弾丸である。彼らには他に何も無い。彼らは国土を荒廃させてしまった。彼らの唯一の活動は、婦人や子供、広範な市民たちの血を流すことである。

クロンシュタットのすべての市民は、共産主義者の圧力に対する憎しみである憤慨が爆発した唯一の集団である。彼らは、労働者やクロンシュタット守備隊によって開始された戦いを心配しながらも、すべてに協力している。そのうえ、進展した諸事件を、ボルシェヴィキの新聞のように受動的に考えてはいない。彼らは、あらゆるくびきから解放された新しい人生を希望している。

飛行機からの爆撃は彼らを恐れさせはしない。無罪な犠牲者たちは、ボルシェヴィキの頭目に襲いかかられるだろう。しかし人民は、残忍な威圧者たちの無益な激怒の爆発を落着き払って静かに考えている。人民は品位と威厳を保っている。

君らはたえず爆弾を投下し続けることができる。だが、それは我らを阻止できないだろう。

共産党は権力を掌握するや否や、多くの人民に代って、彼らの特権的地位を利用し、負者に誇った。共産党に徴集された人々は、安穩とした生活を求めて入党した。それらすべての「放蕩者」たちは、党の初期の理想主義者たちを弱体化するしか用をなさなかった。政府の三年間の行政の過程で党の指導者たちは、腐敗と混沌の中に国家を引きずり込み、大衆から遊離していった。党の指導者たちが、労働者大衆や農民たちの熱望に対し、次第に明白に対立する政策を行い続けたことが、多分に党分裂を引き起した要因であり、三月に開会されるにいたった党の第十回大会は、ある意味でそれらの分裂の表面化したものと思われる。

だがこれら一連の出来事は進展するのみであり、大きくなった大衆の不満は増々大きくなり、人民は党からの解放を要求していった。これが人民運動の性格である。共産主義者たちは、労働者・農民を射殺し、運動を窒息させながら戒厳令を施行していった。我々は人民大衆の熱望に代って進撃すべきである。すなわち、土地制度を改革すること。そして、労働者の自由意志を表現してないソヴェトの再選がそうである。

共産党の能力である暴力と嘘の告白は、真実な共産主義者のために、如何なる共産主義者も誠実な人々によって正当化されることはない。砲兵や機関兵であるすべての親愛なる共産主義者たちは、労働者に語る他の言葉を見せなかったので、彼らから離れていった。この別離とは何か・・・？

党を放棄し、党員でない旨を表明した同志たちは共産主義革命の理

念をしっかりと保持し、全世界のマルクス主義者の構想を決定的なものにした。それらの同志たちは、彼らの指導者たちによって決定された政治姿勢に対し、理性的に遂行するよう声を大にして抗議し続け、党への忠誠を守った人々である。彼らはロシアの面前で、他の共産主義者によって崩されてしまったマルクス主義の理念を、自らの身を危険に晒しながら、修正するよう主張した。

同志ボラノフはこのことをすで行い、私自身も彼に同行する。如何に他の同志たちが、彼らの意図する方向へ進むことを表明しようとも。

全世界のプロレタリアートへ

臨時革命委員会は、次に続くような無線電報を送った。

全世界のプロレタリアートへ

全世界のプロレタリアートへ

私は、人生のあらゆる苦痛に耐えてきた年老いた水兵である。現在は単なる労働者として労働者階級の利益にあずかっている。私は現在の状況をつくづく眺め、それは私を苦悩させる。あなたがた——労働者・農民・都市労働者——は、決して酷使されることのない輝かしい有望な前途を、三年もの間待っていた。あなたがたは、共産党の指導者を信頼していた。だが党の指導者たちは、利害の衝突から分裂し、至

全世界のプロレタリアートへ

なく、この闘争のスローガン「打ち勝つか死ぬか」を拍手をつけながら、自由のために戦っている。

クロンシュタットには、だれ一人として流血の惨事を望む者はいない。「現在のソヴェト権力に反対を表明して立ち上がった」人々に、共産党が流布したあらゆる風説は、嘘であり根拠などありはしない。

ここでの生活はいたって平常にとり行われている。トロツキーなどの党の指導者たちが、流血の惨事を繰り広げている。そのため我らの兄弟たちが葬り去られた。何故に？ 犯罪を重ねた党を強化するためである。

党の政策や流血はもうたくさんだ。党の指導者たちよ、現在おまえらが行っていることを止めてくれ。もしおまえらが承知しなければ、おまえらが行っていると同様な対抗手段をとる。我々を平和にしてくれ。我々下部黨員は党を欲してなどいない。我々の子供たちは、父の仕事から利益が生じるよう、我らの人生を我らと同様、復興することを望んでいる。

手を取り合って、我らの未来を取得しよう。おまえらは人民の言葉を取り合え、犯罪をやめなければならぬ。

彼らは国政を指導することを放棄している。彼らが労働者階級に対し、生贄という最も幼稚な手段をとって以来、私が真摯な兵士である限りに於いて、次のことも公然と訴える。「労働者の自由な自己表現を構わないでくれ。」

党の如何なる者であろうとも、飛躍した行動をとることは許されない。我々ソヴェトのメンバーは、党人であれ、選出議員であろうとも、人民の自由意志を表象しなければならない。

「すべての命令や規律を乱す者に対し、精力的に戦うことができるよう、最も厳格な規律をバルチック艦隊のすべての部門及び機関の建物に設置する。」

「部門及び機関への入館は、人民委員の許可なくしては、局外者のだれ一人として入館することはできない。」

すべての人民委員と責任者は、彼らの持ち場にとどまっていた。「バルチック艦隊の革命裁判所は、現国家の厳格な法律と命令に従わない者をただちに罰するであろう。」

彼らはロシア人の金を盗んでいく

「ハバス」代理店が伝えるところによれば、蒸気船アンセナ号上で、ロシアの金が不法に隠し持たれていたことが話題になった。それは、ロシア通商使節団のメンバーの船室から合計一六六ルーブルが発見されたことで明るみになった。不法に隠されていた金は、イタリアの銀行に預けられてしまっていた。

我々のあらゆる感謝をこめて

私は、クロンシュタットの善良な市民への感謝の言葉を見出すことができない。彼らは、市民が受けとる、取るに足らない食糧配給にもかかわらず、夕食にはスープを、そして時には非常に大きな犠牲を払いながら、パンを最前線の持場へと持ってくる。或る時には、前線へ出発する赤軍兵士に、パン屋から持ってきたばかりの温かいパンを与えてくれた。それらすべては親切で満たされている。

我々はクロンシュタットの人々が、ブルジョアジーに対してのみ戦

暴力もない、拷問もない、虐殺も動乱もない、真実で自由な最も素晴らしい人生を探し求め、労働者大衆の自由意志に従わねばならない。私は純粋な共産主義理念を、今だ失わずに堅持している。党の諸事項に関し私は、三年後の今日、党に君臨し続けている不法行為者や、我ら大衆から疎じられた官僚主義者が何人いるか分かった。

故に私は、共産党から脱党する。私は、このような黨員がいる限り、如何なる者も入党しないであろう事を宣誓する。

私のなすべき事は終わった。私は、労働者階級とソヴェト・ロシアの安泰のために、自由で正直な労働者が引き継がれんことを望む。

海軍砲術研究所元所員・コンミュニオン財務省職員 クラシエフ

ペトログラードからのニュース

最近モスクワで展開されたロシア共産党第十回大会について、中央委員会はそれらの諸活動を報告した。

彼らが提出した二百の事項中五十は、彼らの犯罪の性格を表わすものである。全般に諸事項は、社会状況の責任を他人に転化するという悪習に従ったものである。

委員会は、中央委員を前にして、責任ある黨員の地位を自から放棄した、とんでもない者たちに対する許しがたい戦いを起こすべきであることを提起した。

すばらしい国土に異議を唱え、党を放棄してはならない。最近の諸事件に関連して、バルチック艦隊の指揮者は、次に続くような命令を発した。

っているのではなく、労働者の自由意志のすべての圧政者に対して戦っていることを明らかにしなければならない。同様に、彼ら市民も他の者たちと同じように左翼になったことを、ロシアの労働者と、全世界の人々に明らかにしなければならない。

黨員たちには、ソヴェトの真の権力万歳。

五六〇銃手連隊の赤軍兵士 アンドレエフ

親愛なる兄弟たちの援助

クロンシュタットの人民は、右翼製造業者の進出を防げている赤軍兵士に、彼らの援助できるあらゆる可能性を追求している。

昨日、港からの護送に雇われたボリス・シグロフは、兄弟たちのために戦っている臨時革命委員会組織戦闘員に長靴二足をもってきた。

臨時革命委員会情宣局より

我々水兵・赤軍兵士としてクロンシュタットの革命的労働者は、共産主義者の憎らしいくびきを全員の一致した努力によって一掃した。そして我々は、打ち勝つか死ぬかというスローガンを享有する。何故なら、ベテニ師と示談することなどできないからである。我々は来たるべき社会を実現することを宣誓した。そしてそれを現実化するであろう。

チェカによって飢えさせられ、虐待されたロシア人民は、四年以上もの残酷な戦争と、三年半もの共産主義者の暴力と奴隷制を我慢している。救済者としての彼らが、我らに差し出したものは、無味乾燥でしかも冷淡なものであった。

我々は、我らと共にあるすべての同調者に対し怒り狂い、必死に压制しようとしている共産主義者が、政府の中に何人いるかよく知っている。

我々は、我らの敵に対して戦うだけでなく、銃剣と大砲のみならず言論の自由に対しても戦うことを決定した。

我々は、最も強固な王座を確立するため、圧制者たちが行っているあらゆる方法、チェカの拷問部屋の恐怖や共産主義者の罪を明るみにする。そのためには、言語と出版活動の努力を惜しまないであらう。

銃剣と銃剣の政府であるボルシェヴィキ政府は、我らの兄弟をだましながら、勝手にコミュニケを発表し、約束を守らない。

我々すべてが防衛しているものは、労働者の流血を阻止することであり、人民委員や共産主義者たちのそれではない。彼らは殺戮どころではない。ロジエたちは、柔かな椅子に心地よく、安楽に座っている。彼らは、生産者人民をだますという最悪な方法を安穩として談笑している。更に、或る者は、クロンシュタットへ死者を派遣することを決定している。

すべての砲火に応えながら我々は、唯一クロンシュタットに於いてばかりでなく、敵の軍隊にも我らの印刷物を広めるため、あらゆる可能性を追求し、情宣活動をあきらめない。そのために同志である水兵たちは、戦列の砲火のなかで彼ら自身の生命を捧げている（赤軍兵士をだました偽善者トロッキーは同様に考えないが）。流血の惨事を最小限に食い止めるには、より一層の情宣活動を展開しなければならぬ。

共産主義者によって犯された罪を怒ったすべての者たちは、臨時革

すべての目覚めた同志が、ロシア共産党に有罪宣告する必要もなければ、すべき義務もない。すなわち、共産党権力は見苦しくも自から化けの皮を剥ぎ、人民の信頼を欠如したからである。

人民大衆は辛抱しきれなくなった。ベトログラードの労働者と水兵は、人民委員の圧政と、ソヴェト共産党によって創造されたチェカに対し反逆の船旗を翻えた。この激昂は、共産主義者の力によって窒息させられ、すべての人民には秘密として隠された。我々は、この騒擾が風説として伝わってきて始めて、事の次第を知った。更にこの騒擾は、人民の意志を表明したものであると発言した共産党によって、心ならずも立証された。時を同じくして、餓死と凍死に断固として反対を表明し、反逆した水兵たちが射殺された。これら一連の騒擾は、我々の代表者と蜂起したクロンシュタットによって確証された。

ほとんどすべての人民が出席した守備隊の集会と代表者会合の後、反逆の旗を高く掲げたのは、将軍どもではなく水兵・労働者・赤軍兵士であった。

「元のように赤色になったクロンシュタット」は、共産主義者に、おまえらの印刷物は卑劣で、しかも嘘ばかりであると公言した。

我々に応えることのできるのには、革命的赤色を残した我らの英雄クロンシュタットである。それは共産主義者の際限のない問題とか、我らの視界を封じた彼らの嘘言とは違う。共産主義者は、我々に対し、彼らの罪を知ったという理由をもって砲火を開いた。

同志諸君、彼らは共産主義を確証する如何なる組織をも存在させてない。同様に、以上のような彼らの行動がそれを表明している。その上労働者を射殺し、広範な人民を暗殺し、言論と出版活動によって

命委員会へ、情宣者グループ同志ベレベルキンへ、革命的三頭政治へ自己の生命を捧げた。

我々は、諸君らが、我らのアピールに熱情をもって応えられんことを希望する。

臨時革命委員会情宣局長 ベレベルキン

若者へ（プロレタリアートからの声明）

勤勉な若者と労働者の同志諸君、

共産主義者青年同盟の同志諸君、

諸君らの一人ひとり共和国の現状と、最も特徴的なクロンシュタットの状況を知っている。人々はすべてこの事を目撃し、全世界の人々がこのことを聞き及んでいる。

同志諸君、権力が、現在我々の行動を阻止している共産党の手中に握られた十月革命以来、青年たちは、共産党によって与えられた輝かしい未来建設のために躊躇することなく、我らの祖先に輝かしい人生を与えるための諸事業である新しい社会建設に情熱を燃やしている。それは何故か？ 我々が共産主義者を信頼していたからである。そのため現在までの三年間、ソヴェト共産主義者を擁護するため、我々の父や兄弟たちの血が流された。三年の間、我々は最もすばらしい人生を待ち望んできた。だがこの三年は、飢えと寒さの戦いであり、我らの人生は日を追うごとに悪化した。我々を確実に死にいたらしめるチェカとその軍隊によって、人々が路上で殺戮されている丁度その頃、人民委員たちは、饗宴に饗宴を重ねていた。我々は共産党の罪をこれによって立証できる。

人民を騙した共産党の誤ちは、非常に恥しいことである。

それに終止符がうたれる時が来た。それは団結、それは力である。すべての青年と老人は、共産主義官僚の付帯から切り離れ、自由を我らのもとに取り戻すであらう。

プロレタリア青年と共産主義青年同盟の特別メンバー、同様に、三年間理性を失い、誤ちを犯し続けて来た者たちは、臨時革命委員会を援助すべきである。

すべての者が赤色ソヴェトのために。

共産主義青年同盟活動家メンバー ダボリアン

盗聴した会話

「もしもし……もしもし……同志よベトログラードへつないでくれ……、スモルニ。」

「スモルニ……」トロッキー語る。

「やあ同志、どうしてそちらへ行ったのか、ジノヴァエフ、おれに語ってくれ。」

「飛行機で来た、おれは、クロンシュタットが制した赤軍兵士を説得することができた。そしてこのことは、我々が戦略上の地域を占拠するに残されたものも何もない……」

「赤軍兵士がそちらへ行ったのか？」

「彼らはこちらへ来た。だが、クラスナイア・ゴルカのパン屋の裏切者どもが、輸送するパンの配給を拒否した。」

「何だ……？ それでおまえはどうした？」

（以下、八七頁につづく）

